

2019(平成31)年度白鷗大学大学院法学研究科入試問題
秋季入学試験

租税法

次の設問のうち、自身の知識や経験に照らして最適なものを3問選択し、答えなさい。

【問1】日本国憲法84条に規定する租税法原則について説明しなさい。また、地方税の課税についても、この原則が適用されるかについて論じなさい。

【問2】日本国憲法30条は、国民の納税義務を規定している。現在、日本に在住する外国人に対して日本の税金が課されている。この外国人課税は、憲法に反する課税となるか否か説明しなさい。

【問3】裁判を受ける権利が認められているが、税金訴訟、特に課税処分の取消訴訟において、不服申立前置主義がとられていることについて説明しなさい。また、国税に関する審査請求機関につき、その独立性、第三者機関性について論じなさい。

【問4】納税者の申告行為と課税行政機関の処分(決定、更正)との関係について説明しなさい。

【問5】刑罰について一事不再理の原則がある。脱税事例において刑事罰と重加算税とが二重処罰にあたるか否か論じなさい。

【問6】租税とその他の公的課徴金(使用料、利用料、手数料、負担金)との違いについて論じなさい。また、税と課徴金とが同じ対象となることについて、例えば廃棄物処理料と廃棄物税、論じなさい。